

# 令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立藍小学校
-----	----------

## 1 学校教育目標

**心豊かにたくましく 共に生きる児童の育成**

～大好き自分 大好き友だち 大好き藍～

## 2 今年度の学校重点目標

- ①地域の強みを生かし、子どもの心を変える  
体験を通じた共生の教育 本物にふれる機会や感動体験 One Campus での学び
- ②小規模学習集団の強みを生かし、子どもの学びを変える  
個別最適な学び 協働的な学び ICT 機器の効果的な活用
- ③小規模教職員集団の強みを生かし、学校を変える  
教育課程の柔軟な見直し 危機管理・危機対応 組織的な働き方改革

## 3 総合的な自己評価

学校教育目標及び経営の基本方針・重点目標・努力目標の具現化に向けて、教職員や関係者と学校評価を共有しながら学校運営をすすめた。コロナが5類となり、規制が緩和されたことにより、徐々に教育活動に変化が見られ、地域人材と連携した取組を推進した。また、HP を充実させ、様々な教育活動の様子を発信することができた。そして、オンライン環境が整備されて、ICT 機器を活用した教育活動の推進をさらにすすめることができた。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校教育目標に基づき、学校は児童の健やかな成長を願う保護者や地域の思いを受けとめ指導をしている。学校は、児童一人一人が輝ける学びの場を設定し、家庭や地域への積極的な情報発信を行っているので、児童の成長が良く感じられる。人権教育を柱にした仲間づくりの教育を大切に、今後、ますますの家庭地域との連携を進めるとともに、豊かな自然と地域の人材を積極的に活用しながら、子どもの成長を学校と地域が共有し、地域とともにある学校づくりをさらに進めていくことが望まれる。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
組織運営	学校教育目標、学年・学級目標の実現を目指し、組織的かつ適切に教育活動を進める。	校長のリーダーシップのもと、学校教育目標・重点目標を明確にして教育実践に取り組むことができた。	教育効果を高めるため、少人数の強みを生かした新たな教育課程の枠組みを模索していく。	学校が目指す、子どもの姿が明確にされており、協力体制をとることができた。今後も、積極的な連携を行うことが望まれる。学校だより、学校ホームページの積極的な情報発信が評価できる。コロナが5類となり、規制が緩和されたことにより、表情が見られるようになり、人とつながり力をつける教育に、家庭や地域も学校と連携して積極的に参画したい。
	学校地域運営協議会を中心に、開かれた学校づくりを推進するとともに、保護者・地域への積極的な情報発信により、相互の信頼関係を構築する。	地域コーディネーターとの円滑な連携により、地域人材を活かした活動ができた。また、コミュニティスクールの拠点となる教室を積極的に活用することができた。	コミュニティスクールの拠点となる教室を積極的に活用し、更なる連携を行う。各種通信や HP により全体の児童の様子を発信しているが、HP の閲覧数は多くない。今後は、頻りに QR コードを載せ HP の紹介を行う。	
	ワークライフバランスを意識した業務改善に努め、教職員が子ども達と関わる時間を確保する。	留守番電話により、教職員一人ひとりのタイムマネジメントへの意識が高まり、超過勤務時間が減った。	教職員の意識改革を引き続き行うとともに、ICT などを活用し、業務の負担を軽減させる。	
教育課程 学習指導	新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた各教科等の年間指導計画に基づき、学習指導を適切に進める。	校区の特色を生かした体験的なカリキュラムマネジメントを充実させることができた。また、人的または物的な体制を地域と連携しながら整えることができた。	各教科において、「育成すべき資質・能力」を明確にするとともに、各教科の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。	生きて働く確かな学力の定着が必要であり、個々の課題を共有しながら家庭学習の充実に取り組むとともに、家庭学習の在り方を検討していくことが重要である。藍の豊かな自然と地域の人材を積極的に活用し、子どもの成長を学校と地域が共有し、地域とともにある学校づくりをさらに進めていくことが望まれる。
	「学びに向かう力」の育成とさらなる学力向上に向けた取組の充実等の授業改善に努める。	算数科の授業改善を中心に、講師を招聘した研修会を3回実施した。一人一授業で学団研究を行い、授業改善に努めた。	教科の特性に応じた、児童が主体的に学びたいと感じられる授業デザインを推進する。少人数学級の利点を生かし、家庭学習の個別化、個性化などを模索していく。	
道徳教育 人権教育 安全管理	道徳教育を中心に据え、自分と他者そして命を大切に、互いに尊重しあえる仲間づくりを行う。	なかま集会を目標として、仲間づくりに取り組んだ。	授業を通して、児童が道徳的価値を自覚できるよう、引き続き、授業者の指導力向上を目指した取組を行う。	人権教育を柱にした仲間づくりの教育を大切にしており、今後も道徳教育・人権教育を更に充実させてほしい。すべての児童が明るい気持ちで学校生活を過ごせるように子どもたちの心を育てる教育を地域全体で取り組む。
	学校長を中心とした危機管理体制のもと、計画的な防災訓練を実施するとともに、子ども達の健全な心身の育成に努める。	一昨年の課題であった学校管理下における重傷事故に対する教職員のヒヤリハットの感度は高まり、学校での重傷事故件数は減少し、ケガや病気に対する迅速な対応及び事故防止への指導の徹底が図れた。	高まった教職員のヒヤリハット感度を継続させるとともに、登下校を含めた学校管理下での事故を防ぐため、安全指導を充実させる。	
特別支援教育	個に応じた教育課程を編成・実行するとともに、学校と家庭の連携のもと、個々の実態把握を適切に行い、学校全体で適切にかかわる。	校内支援委員会を定期的に開催し、支援計画などの見直しを行った。事前打合せを充実させることにより、効果的な交流及び協働学習を進めることができた。	特別な教育的支援を要する児童についての共通理解を徹底するとともに、定期的な研修により、全ての教職員が個に応じた支援ができるように取り組む。また、教師間の連絡調整の仕組みを継続させる。	中学校との連携が大切であるとともに、先を見通した学習を行うことができる環境づくりが重要である。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを進めていくことが望まれる。
生徒指導	学校生活のきまりを守り、他者との円滑なコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	あいさつ指導や時間を守る指導など、日々丁寧に指導することで、児童の行動が変化し、多くの児童が落ち着いて学校生活が過ごせた。	少人数のため、人間関係が一度壊れてしまえば、なかなか修復できない。発達段階を踏まえた SST などを年間計画においてトレーニングする必要がある。	心が触れ合える共通の体験を通して、多様な他者とコミュニケーションをとることで、豊かな心を育てていきたい。いじめに対して早期発見・早期対応をいじめ対応チームを中心に組織的な対応を進める。いじめはどこでも起こりうるものという共通理解のもと、安心して生活できる学校にしていきたい。
	「藍小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に向けた指導体制の充実及び組織的対応を行う。	些細な変化を見逃さず、未然防止や早期発見、早期解決できるように、気になることはいじめ対応チームで協議した。	いじめの認知や SC,SSW との連携推進を強力にすすめ、組織的に対応する。また、指導記録を書面で残し、情報共有が迅速にできる体制を整える。	